公益社団法人日本地震学会 2019 年度第 3 回理事会議事録

１．日　時　　2019 年 10 月 3 日（木）　14：05～17：30
２．場　所　　東京大学地震研究所　事務会議室 B
３．理事数　　15 名
４．出席者　　理事 14 名，監事 1 名
　・理　事：山岡耕春，久家慶子，古村孝志，汐見勝彦，内出崇彦，大林政行，加藤　護，
　　河原　純，竹内　希，田中　聡，中川和之，干場充之，松島信一，三宅弘恵
　・監　事：末次大輔
　・事務局：中西のぶ江，岡野美紀子

５．審議事項
　議長山岡耕春は，本日の理事会の理事出席者が 14 名であり定足数を満たしているため，理事会が成立することを宣言した．続いて，以下の議案について，逐次審議に入った．

第 1 号議案　選挙管理委員会の設置について
　汐見常務理事より，今年度行われる代議員選挙の選挙管理委員会の設置および委員の選任について提案された．　審議の結果，選挙管理委員会の設置を承認し，提案された選挙管理委員候補者 5 名を選挙管理委員として選任することとした．

第 2 号議案　代議員選挙に関する規定の改正
　汐見常務理事より，代議員選挙に関する規定の改正について提案が行われた．無効票対策として通常代議員選挙規則第 12 条を改正すること，規則文章を明確化する対応として役員代議員選挙規則第 13 条第 2 項の改正について説明が行われた．審議の結果，提案通り通常代議員規則および役員代議員規則の改正が承認された．なお，無効票対策として今回の改正について選挙時に会員に十分に周知することが確認された．

第 3 号議案　2020 年夏の学校臨時委員会の設置について
　大林理事（大会・企画担当）より，2020 年の地震学夏の学校の運営に関して臨時委員会の設置が提案された．審議の結果，「地震学夏の学校 2020 実行臨時委員会」の設置を承認し，設置期間（2019 年 10 月 3 日～2020 年 10 月 31 日まで）及び委員就任予定者を確認した．

第 4 号議案　謝金規定の別表の改定について
　竹内理事（会計担当）より，神奈川県および東京都の最低賃金（時給）が謝金等支給規定の別表の金額を上回ったことから，別表の金額の改定について説明が行われた．また併

せて原稿料の対象を「広報紙」のみから「学会が刊行する出版物」に拡げることについて説明が行われた．審議の結果，原案の通り別表の改定を承認した．

第 5 号議案　EPS 誌編集長選考委員 3 名の推薦について

議長より，【「EARTH, PLANETS AND SPACE」誌・学会間内規】により，EPS 誌の編集長の改選に伴い編集長選考委員会委員の候補者として 3 名の会員を推薦することが諮られた．審議の結果，原案を全会一致で承認した．

第 6 号議案　「機関連絡員に関する規則」の創設

久家理事（地震学を社会に伝える連絡会議担当）より，「地方連絡員」をその実態に合わせて「機関連絡員」と名称を変更すること，また，機関連絡員について規則を定めることについて提案された．審議の結果，名称の変更および規則の制定について原案を一部修正の上，承認した．

第 7 号議案　2019 年日本地震学会学生賞優秀発表賞受賞者の選考について

大林理事（大会・企画担当）より，学生優秀発表賞選考委員会からの選考結果報告が行われ，選考委員会から挙げられた受賞候補者 8 名の受賞について審議が行われた．審議の結果，2019 年度日本地震学会学生優秀発表賞受賞者を以下の通り決定した．

氏名（五十音順）　　所属（学年）　　「発表タイトル」

大野 圭太郎　　東北大学大学院理学研究科（修士課程 2 年）
「震源断層モデル推定の不確実性リアルタイム評価手法の開発-2019 年山形県沖の地震への適用-」

加藤 慎也　　京都大学大学院理学研究科（博士課程 1 年）
「近畿地方中北部の下部地殻における断層帯深部の地震学的構造」

高橋 秀暢　　東北大学大学院理学研究科（博士課程 2 年）
「短周期 OBS データのクラスタ解析による低周波微動検出の試み」

中込 広大　　名古屋大学大学院環境学研究科（修士課程 2 年）
「2016 年熊本地震の余震発生における間隙流体圧の役割」

中本 敬大　　金沢大学大学院自然科学研究科（修士課程 2 年）
「微動パッチ分布と ETS イベントの成長過程」

原 将太　　京都大学大学院理学研究科（修士課程 2 年）
「深層学習による P 波初動検出と決定プロセスの可視化」

湯浅 雄平　　九州大学大学院理学府（修士課程 2 年）
「九州の下部地殻における非弾性変形と地震活動について」

王 宇晨　　東京大学地震研究所（博士課程 1 年）

「A Method of Real-Time Tsunami Detection」

第 8 号議案　協賛・協力依頼について

以下 3 件の資料が回覧され，審議の結果，協賛，協力名義の使用を許可した．

協賛：GPS/GNSS シンポジウム 2019
第 22 回アコースティック・エミッション総合コンファレンス
協力：「ぼうさいこくたい」セッション12　「南海トラフ巨大地震研究と減災対応」
－研究者、行政、企業の連携を視野に－

第 9 号議案　入会承認について

汐見常務理事から，入会申請者の承認に関する件について諮られ，審議の結果，正会員に申し込みのあった 29 名（内学生 24 名）の入会を全会一致で承認した．また，提出された学生会費適用申請書についても承認した．

第 10 号議案　EPS 編集長候補の学会推薦について

議長より EPS 編集長候補者の学会推薦について，1~3 名の候補者を推薦したいとの説明があった．審議の結果，挙げられた 3 名の会員を日本地震学会からの推薦とすることとした．

６．報告事項

以下の報告があった．

1. 汐見常務理事より，名誉会員 1 名の退会報告および正会員 1 名（内学生 0 名）の退会届が提出されたとの報告があった．

2. 久家理事（連絡会議担当・国際担当・男女共同参画推進担当）より，業務執行報告が行われた. IASPEI 委員会の活動として, 委員会を 5 月と 9 月に開催したこと, IUGG 報告をニュースレター9 月号に掲載したこと，IASPEI を含めた国際関連の情報収集や対応を行ったことが報告された．特に IASPEI の President に佐竹 IASPEI 委員長が就任したとの報告があった．

   ダイバーシティ推進委員会の活動として 2019 年 JpGU 保育ルーム利用補助事業として 2 件の補助を行ったこと，2019 年秋季大会の託児室の開設状況および今後の検討事項について報告された．特に今後は利用ルールの整備を検討することが説明された．

   地震学を社会に伝える連絡会議の活動について，第 2 回の連絡会議を 7 月に開催したこと，2019 年 AGU 秋季大会に地震学会の社会活動についてポスター発表を投

稿し受理されたこと，南海トラフ特別シンポジウムに関して，実施報告，今後の資料公開予定およびモノグラフの原稿募集の予定について報告された．また，秋季大会時にポスター掲示された社会活動ポスターについて学会 WEB ページを更新する予定であることが報告された．

3. 河原理事（海外渡航旅費助成金審査・表彰担当）より業務執行報告が行われた．海外渡航旅費助成金審査事業については，2019 年度 （後期）海外渡航旅費助成金への 6 名の応募に対して 3 名の助成を決定したこと，また，今回の助成者のうち，航空券購入に充当した「ポイント」分に関して助成対象外とすることを決定したことが併せて報告され，今後の公募において明示する方向で検討することが説明された．
　表彰事業については，第 2 回委員会開催報告，第 36 回井上学術賞受賞候補者として 1 名を学会推薦したこと，東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成への学会推薦の募集を行い，後者に 1 件の応募があり学会推薦を決定したこと，学会 4 賞の公募を開始したこと，第 61 回藤原賞受賞候補者と 2020 年度山田科学振興財団研究援助の学会推薦公募を準備中であること，論文賞への受賞候補論文の情報提供を EPS および PEPS の各編集委員会へ依頼をしたことが報告された． 情報提供依頼について三宅理事より，現在，論文賞の選考要領に EPS や PEPS の編集委員会への情報提供依頼についての明記がないことから，選考要領の改定を検討してほしいとの要望があった．

4. 内出理事（学会情報誌担当）より，業務執行報告が行われた．『地震（ニュースレター部)』第 72 巻第 NL3 号を 9 月 10 日に発行したこと，メールニュースの発行状況が報告された．また，メールニュースの不備に関して今後は確認作業を徹底することなどが報告された．

5. 田中理事（広報担当）より，業務執行報告が行われた．第 2 回広報委員会の開催について，広報紙なゐふる 119 号の発行および 120 号の内容決定について，広報委員会次期委員長の決定について，10 月に学会 HP を修正する予定であることについて報告された．また，編集期間の確保のため，なゐふるの発行月を来年度から 5・8・11・2 月に変更することについて報告された．

6. 大林理事（大会・企画担当）より業務執行報告が行われた．プログラム編成委員会，第 3 回および第 4 回委員会の開催について，秋季大会および一般公開セミナーの開催報告，2019 年度地震学夏の学校の開催報告，2020 年度秋季大会の準備状況について報告が行われた．また，2021 年以降の秋季大会について 2021 年度秋季大会は東北大学に所属する会員により LOC を組織し仙台国際センターでの開催を検討して

いること，2022 年度秋季大会は北海道大学に所属する会員により LOC を組織することが報告された．さらに，秋季大会の開催地正式決定のプロセスについて，委員会において LOC の選定および会場等の決定を行い，担当理事により理事会へ報告することが確認された．その他，委員会で行う JpGU-AGU Joint Meeting 2020 へのセッション提案についてセッション名および使用言語が報告され理事会で確認した．委員会の今後の課題として，セッション区分見直しのため会員から意見を募集する予定であること，大会における非常変災時の対応について情報収集を行い検討することが説明された．

7. 加藤理事（地震編集担当）より業務執行報告が行われた．9 月 26 日現在 4 編を編集中であること，72 巻で 5 編を WEB 公開したこと，冊子体 9 月号には 2 編を掲載し，冊子体 11 月号には 1 ないし 2 編を掲載予定であることが報告された．また，今年度は投稿のペースが遅いため，積極的な投稿を呼びかけたいとの説明があった．その他，地震の発行にかかる著者負担費用について見直しを検討しているとの報告があった．

8. 中川理事（普及行事・ジオパーク支援担当，社会活動基金事業担当）より業務執行報告が行われた．ジオパーク支援事業については第 1 回委員会開催報告，ジオパーク巡検の実施について参加者の参加報告と併せて報告された．その他，日本ジオパーク委員会の活動状況について報告された．

   普及行事事業では，今年度の地震火山こどもサマースクールの実施および現在までの収支状況が報告された．

   社会活動基金事業として 9 月 4 日に新潟県粟島において開催した第 12 回三島交流会 in 粟島「粟島地震セミナー　山形県沖の地震－これまでの研究で分かっていたこと、地震で分かったこと，分からないこと」の実施報告および基金の使用状況報告が行われた．その他，10 月 19 日から開催される「ぼうさいこくたい」について出展団体のコミットメントの確認が行われた．

9. 干場理事（強震動担当）より，業務執行報告が行われた．第 35 回強震動研究会の開催報告，12 月に開催される「強震動予測―その基礎と応用」第 19 回講習会の準備状況について，地震（ニュースレター部）へ新連載の予定および過去に連載した「新・強震動地震学基礎講座」の単行本化を検討中であることが報告された．

10. 根本理事（学校教育担当）より提出された資料に基づき，汐見常務理事より代理報告が行われた．教員免許状更新講習，教員サマースクールおよび地震の教室の実施報告，来年度の教員サマースクールの開催に関して 9 月の週末に行う予定であるこ

と，学校教育委員会が運営に参加する行事での非常変災時対応について委員会で決定した対応が報告された．

11. 松島理事（災害調査担当）より，業務執行報告が行われた．防災学術連携体幹事会への出席報告，JpGU 環境災害委員会の活動として JpGU-AGU Joint Meeting 2020 のユニオンセッションおよびパブリックセッションへセッション提案を予定していることが報告された．

7．その他（意見交換）

以下の意見交換を行った．

1. 田中理事より，著作権規定改訂のためのタスクフォースの立ち上げについて資料が提示された．資料に基づき趣旨および構成メンバー案，進行案に関する説明が行われた．意見交換の結果，著作権規定改訂のためのタクスフォースを立ち上げ，提案された出版物およびホームページに関わる理事で構成されるメンバーで活動することとなった．

2. 松島理事より，2020 年 3 月に開催が予定されている第 9 回防災学術連携シンポジウム「低頻度巨大災害」について，地震学会の講演者の決定方法について意見を聞きたいとの説明があった．意見交換の結果，テーマである「低頻度巨大災害」がどの程度を想定しているのかにより講演者を選ぶ必要がるため引き続き検討することとした．

3. 汐見常務理事より，個人情報の取り扱い方針について資料が提示された．意見交換の結果，取扱方針については丁寧に示したほうが良いとの意見があり，資料に提示された方針案を修正し，次回理事会において方針の制定について審議することとした．

4. 汐見常務理事より，「公益社団法人日本地震学会就業規定」改正について資料が提示された．資料に基づき経緯および改正案に関する説明が行われた．意見交換の結果，次回理事会において「公益社団法人日本地震学会就業規定」改正および災害発生（見込み）時の条件適用ガイドラインについて審議することとした．

5. 汐見常務理事より，「日本地震学会財務・運営に関する検討結果と実施する対策」のフォローアップについて資料が提示された．資料に基づき経緯に関する説明が行わ

れた．意見交換の結果，行った施策に対してフォローアップを行うことが重要であることが確認され，実施した施策に関して会員へのアンケートや実態調査を行い，引き続き検討することとした．特に，秋季大会の休日開催は，その運営や準備について今年度の大会の状況が説明され，休日開催の実効性について検証を行うことが重要であると確認し，会員へのアンケートを実施することとした．

6. 加藤理事より，地震のカラーページ費用の一部学会負担を検討するにあたり，経常費用負担の問題が発生するため，学会の事業に関する中・長期的な検討を行ってほしいとの意見が出された．意見交換の結果，会員への学会活動に参加する直接的な利点は大会での発表および参加と「地震」への投稿・閲覧であり，大会の開催と地震の刊行に重点を置いてはどうか，地震の冊子体をモノクロ化することを検討しては等の意見があり，引き続き検討を行うこととした．